

『人情について』

先

だって、ある団体の会議がありました。その団体には、いくつかの部があり、それぞれで活動をしています。その中の一つの部での集まりの時のことです。予定されていた時間より随分と早めに部長さんが来て会場を一人で整えて、部員の方を待っていました。彼は、この日のために、相当の準備と勉強を重ねている様子でした。10分間待ちましたが誰も来ません。20分待ちましたが、やはり誰も来ることがなく、とうとう1時間以上も待ってから彼は、その日の集まりをあきらめたのです。私の勤務する職場の会議室をお貸ししていたので、そのことを具に知ることが出来ました。その後に関われたその団体の役員会で、部長さんだけが待っていた件について伝え、せめて出欠の連絡ぐらいいれたらいいのではとの報告があった時です。

ボ

ランティアだから、今までも出欠の有無を連絡しなかったし、そのような義務もない」と、ある方が言いました。その言葉の中には、ボランティアをしてやっていると驕りすら感じました。その言葉まず、一人で参加者を待っていた人に対して、申し訳ないという気持ち伝えること、そして自分が待つ側になって想像することが大切なのではないか。淋しい思いをさせてしまったことに思いを寄せていただきましたかと私は思うのです。人道の四つの敵は、人々に対する無関心、想像力の欠如、そして利己心と認識不足だと言われています。先にあげた話題は、どこにもある小さなことかも知れませんが、小さなことでも積もり積もると、それは取り返しのつかないことに、繋がって行くのです。

羊

「羊 養と人情は、厚い方が良い」
こんな言葉を聞いて育った古い人間の私ですが、今になって

しみじみと、この言葉が胸に染みるのです。正論と正義の言葉を振りかざす人よりも、苦勞人の人情ある朴訥とした言葉と振る舞いに、私の心は感じ入るのです。

今

ウクライナやガザ地区、そして世界の様々な出来事の中で人道危機が叫ばれています。人間の痛みは無関心、そして人々の苦悩を想像もしない行為が、まかり通って良いのでしょうか。かのマザーテレサの言った言葉と伝えられている
「愛の反対は憎しみではなく無関心」

この言葉は、正に人道に通じるものです。

人

人情とは、誰しもが持っている優しい心の働きだと思います。仏心は、月の光と同じように如何なる人の心にも宿るものだと説いています。そうあって欲しいと祈るのです。人情はAIにはないものです。相手、どのような関係、どんな時を過ごしてきたのか、体調、時間、昨日はどのようなことがあったのか、これからどう生きていきたいのか、今いる場所や生活状況等々多くの要因が重なりあいながら、本来皆が持っている優しい気持ちや心の中に芽生えた時に、自然に湧き出す優しさを人情と呼ぶのかも知れません。AIの中から湧き出たは来ないでしょう。今はAIが人の行為、思考を素早い速さで、なぞっています。いつか遠くない未来、人間がAIをなぞるようになってしまっているのではないかと危惧するのです。何の為にAIを使うのか、目的が情のある正しいものならば、AIは人に寄り沿う有用な存在でいられると思います。とにもかくにも、人情を忘れてはいけないと、弱己に言い聞かせながら、今を生きているのではあります。私は時折それを忘れてもいることも多いのです。この年になっても、まだまだの人生を送っている私なのです。